



バアナアド・リーチ氏への 送別—諸家の感想

バアナアド・リーチ君に就いて

高村光太郎

バーナード・リーチ君の事に就いて、今詳細に私の感想を書いて居る暇の無い事を悲みます。

リーチ君と知合になつたのは、お互に英國倫敦の或る畫學校の故スワンの教室で木炭をやつて居た時でした。其頃の同君は趣味と獨創を求めるといふ事について頭が一ぱいの様だつたと思はれました。やがて、同君は日本へ來る事を決心しました。そして其の前提として大陸旅行を企てられました。同君の眼界は非常に廣くなつて、其の旅行前と旅行後とは、同君の生活に容易ならぬ一轉化があつたと思ひます。そして眞實に對する同君の熱情は益々強くなつて來ました。従つて天才に對する憧憬の情も愈々烈しくなつて來ました。キリアム・ブレイクは同君の昔から崇拜してゐる天才で、又同時代ではアウガスタス・ジョンを始終

尊敬して居ます。巴里郊外の旅舎に君を訪問した時、セザンヌにひどく驚いて居た事をおぼえて居ます。それから間もなく日本に來ました。子供の時聞いたといふ智恩院の鐘にあこがれて居ました

箱
根(一九一三年)

バアナアド・リーチ筆(エツチング)



はれます。

其間の同君の思想及藝術は、近著「ルギエウ」を見れば解ります。此は枝葉の事柄ですが、日本に來た外國の藝術家の中で一番よく日本を了解した人であるといふ事が言へます、

しかも其が研究といふ様な獨逸流のゆき方でなくて、自分自身の生長といふ事とびつたり關係して、自分自身の生命の問題となりつゝ苦惱して行つた處がまるで根本から他の外國藝術家と違ひます。私は同君の誠實と熱情と理解とに對して十分の尊敬の意を表します。

リーチ君の背負つてゐる使命は大きい。同君は其を自身でよく意識して居る事と信じます。又日本に斯程の關係のある同君が日本を去る事は日本の良友を外國に持つ事になります。私は其を喜んで居ます。

リーチ君自身の藝術及び思想についての私の感想は今日は述べません。

が、其頃の同君は今日の同君に比すると一種のセンチメンタリストでした。日本に居た數年間は、

同君にとつて大變な歲月だつたと思ひます。同君が本當になつて來たのは日本に來てからの様に思

リーチ君の友情を思ふと私はいつも涙を誘はれる程感謝の念に満ちます。

はるかに同君の健康をいのります。